



レコード『大正生れ』

☆中18回生 S 51年発売、作詞者は、神戸大学学友会活動を共にした同期故小林朗君。

一、大正生れの俺達は 明治の親父に育てられ 忠君愛国そのままに お国の為に働いて みんなの為に死んでゆきや 日本男児の本懐と 覚悟を決めていたなあお前

二、大正生まれの青春は すべて戦争のただ中で 戦い毎の尖兵はみな大正生まれの俺達だ 終戦迎えたその時は 西に東に駆けまわり 苦しかったぞ なあお前

三、大正生まれの俺達にゃ 再建日本の大仕事 政治・経済・教育と ただがむしゃらに30年 泣きも笑いも出つくして やっと振り向きゃ 乱れ足 まだまだやらなきや なあお前

四、省略。それから40年、いろいろありました。波乱に満ちた18回生は、月月火水木金働いて、ジャパンNo.1を築きあげたと自負しています。尋常小学校で、

満州事変・日華事変。三中では、国家総動員公布、大水害、紀元2600年祭・米英と開戦。5年間38歩兵銃を傍に『開門章』の教えに従い耐え抜いた卒業生234名。現在本誌が届いている級友33名。残念の一言。

◎18会は続いています。2/9会、2月16日ポートピアホテル「聚景園」で、柴田・庄野・信澤・樋口夫人・島に会友共11名、話は「健康問題」ながら和氣藹々。日展入選（彫塑）作家高木誠三大兄昨9月11日他界。「すこやか」「静心」母校図書室に残る。ご冥福を祈るのみ。合掌。

（島 一雄）

蒸気機関車の底力

☆中19回生 昭和19年春神戸三中を卒業してあこがれの鹿児島第7高等学校に入学し、その後すばらしい旧制高等学校生として寮生活をすごしました。そして2年生になった昭和20年夏帰省のため8月6日下関駅に到着しましたが、広島方面での大事故のため山陽線が不通ということで、その夜は下関駅ですごしました。

原爆などという報道は全くその夜は下関駅ですごしましたが、翌朝東京行が発車するというので列車にとびのりしました。

列車が広島に近づくにつれて窓から見る景色はすさまじいものになってゆきました。民家はほとんど一定の方向に傾き、全く人影もなく死人の町のように傾きました。広島市内に入ると一面の焼野原でやっと広島駅とわかるプラットホームに停車しましたが、ほとんど乗ってくる人はありませんでした。

原爆にもレールは無事でありましたので蒸気機関車はどんどん走りつづけ、夜10時頃神戸駅に到着しました。

昭和20年頃の困難な時に、列車を無事に運行させておられた鉄道の関係の方々に、心から感謝申し上げる次第であります。

（須山 哲夫）

米寿を祝って

☆中22回生 昨年10月25日、JR三ノ宮駅ターミナル・ホテルで、同窓会例会・懇親会を開催しました。今回も東京の尾崎喜多男君、横浜の田中雄二君、千葉の中桐伸夫君たち遠来の友を迎え、20名が集いました。

懇親会では、米寿を祝って赤白のワイシャツが並び、一人ずつ学校時代の懐かしい思い出、米寿を迎えての心境や現在の活動などを語り合いました。記念写真には三鼓訓のご尽力で、一人ずつ氏名を記載した表を添えて、お送りしました。



この会は、圧倒的多数意見で、90歳までひき続き開催する事に決まりました。今年も秋10月に、例会・懇親会を開催する予定なので、多数ご参加くださいますようお願いいたします。

（黒川 行信）

ラスト二十四撫会

☆中24回生・高2回生 昨年は恒例の10月24日、トアロード悠苑で二十四撫会（同窓会）を開催。出席者は加藤豊、構恒一、神吉一誠、小林市郎、直原利夫、永福章、浜口節夫、前川正三（50音順、敬称略）の8名でした。

今回は開催時刻・場所が変わります。交通が便利で参加しやすい時間にしました。二十四撫会全体として集まるのは今